

# 月刊東乳商

第601

東京都牛乳商業組合 平成29年2月20日  
●URL <http://www.tokyo-gyunyuya.com> E-mail [tonyusho@forest.ocn.ne.jp](mailto:tonyusho@forest.ocn.ne.jp)  
毎月20日発行・定価1部150円 1年1800円(郵便料共)(昭和47年2月22日第3種郵便物認可)

発行所  
東京都牛乳商業組合  
代表者 渡邊佳三郎  
東京都千代田区岩本町2-11-3  
第八東誠ビル7階 〒101-0032  
電話 03-5809-1776  
FAX 03-5809-1786

タブレット地図ソフト  
**市乳くんNAVI**

ホームページで動画公開中!是非、ご覧下さい。  
お問い合わせ・資料請求は **0120-5959-92**  
株式会社オシカワシステム <http://www.oskw.jp>



### 東乳商2017理事支部長新春のつどい

東乳商の理事・支部長が一堂に集まって新年を祝う恒例の「新春のつどい」が1月24日御茶ノ水のホテルジュラクで開かれた。来賓をはじめ各支部から理事・支部長や組合員など40名が参加、マーク、世代を超えた販売店主が一同に会し、歓談も弾み大盛況だった。

あいさつに立った牛乳販売店団体の幹部は、厳しい状況が続くが、お客様とのコミュニケーションを大切に、良質のサービスを提供することで、顧客の支持を得ながらこの難局を乗り越えて行こう、と呼びかけた。

理事長あいさつ  
月刊東乳商1月号は599・600合併号として先日発行しました。世の中にはいろいろな業界団体がありますが、50有余年の長い間、組織を維持し、機関紙を発行し続けている団体はあまりないと思われま。歴代の理事長がバトンタッチを続け、私は平成17年から12年間理事長を務めており、次の方へバトンを渡す時期にきています。

平成29年度は骨太の事業計画として「マークを超えた事業共同化」の検討を開始します。これに先駆けて昨年は、東京都中小企業団体中央会の支援のもと、組合員アンケートを実施。調査の集計、分析結果の報告会を3月6日に予定しており、その際に今後の進め方等も議論する予定です。今後の進捗状況も含めて組合員の皆様には逐次情報提供を行うので、ご期待頂くとともに、ご協力もお願いします。組織の力で店主の高齢化による後継者不足問題、配達空白地帯の解消といった諸課題に取り組んでいきます。最後になりますが、ここにお集まりの皆様の健康と、今年も商売が恙なくできますことを祈念して挨拶とさせていただきます。

来賓のごあいさつ  
東京明乳事業協同組合理事長  
川幡 康成 氏  
正月に感じたことをお話しします。毎年2日に神奈川の寒川神社に初詣に行きますが、今年も例年になく多くの参拝者がつめかけ、参拝制限がされました。日本人の信心の心というものを感しました。最近人工知能の研究開発が進み、自動車の自動運転、スーパ、ファミレス等のレジの無人化などが進んでいます。



### 東乳商組合員の訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

中央支部 明治牛乳佃宅配センター  
吉川 謙 様  
平成29年1月19日永眠 享年68歳

西多摩支部 森永牛乳宮ノ平販売店  
店主 山崎 栄三 様 ご母堂  
光子 様  
平成29年2月2日永眠 享年78歳

[tonyusho@forest.ocn.ne.jp](mailto:tonyusho@forest.ocn.ne.jp)

### 東京都との連携事業 「高齢者見守り」「ながら見守り」協定

#### 協力事業者用ステッカーを配布します。

昨年9月に東京都と「高齢者等を支える地域づくり協定」「ながら見守り連携事業に関する協定」を締結しました(協定内容は月刊東乳商9月号に掲載していますので参照してください)。

東京都が制作したステッカー(裏面粘着シール)を無償で配布します。

○高齢者見守り(3種類すべて円形)  
店舗用 直径17cm  
四輪車用 直径10cm  
二輪車用 直径5cm

○ながら見守り  
店舗用(円形) 直径17cm、  
四輪車用(長方形) 縦13cm、横35cm  
二輪車用(長方形) 縦8.7cm、横23cm

ご希望の方は必要枚数を事務所まで電話、FAX、メールでご連絡下さい。

電話番号 03-5809-1776  
FAX番号 03-5809-1786  
メール [tonyusho@forest.ocn.ne.jp](mailto:tonyusho@forest.ocn.ne.jp)

### 森永牛乳協会会長 宮島 寿一 氏

新年早々、アメリカのトランプ新大統領に世界中が振り回されており、今後の混乱が予想されますが、我々乳業界では新春早々TVで牛乳の効

こんな中で人と人のコミュニケーションを大切に数少ないものとして宅配の存在が、お客様に期待されていると思います。メーカーにも宅配向けの商品開発を訴えかけています。

能、プリン体を体外に排出する効果があるということが取り上げられ、白物が売れています。宅配への波及効果はあまり期待できないが、番組の情報を活用しながら少しでも拡売に結びつける努力をしたいと思えます。東乳商は来年度も新しい事業を推進すること期待しています。

様々な情報発信をしていただき、我々を側面から支えていただき、我々

次に乾杯に移り東京雪印メグミルク協会会長の久保浩之氏の発声で乾杯した。

アトラクションではフラメンコチームが登場。リーダーで踊り担当の天野なおみさんと仲間たち総勢9名が、情熱的なフラメンコを披露してください、会場はスペイン語の掛け声も飛び交い、座も大きく盛り上がり、和やかな雰囲気の中、2時間の懇親会が行われた。



# 第29回牛乳販売店優良事例発表会

平成29年2月3日(金) 13時30分より  
アルカディア市ヶ谷にて開催された。

冒頭で橋本会長は「本日ここにお集まりの発表者の皆さんが日頃から努力され、長年かけて培ってきたノウハウ、その結果としての優良事例は販売店にとって大変な励みとなり、参考となる。全国の販売店は、これを参考として地域で活躍してほしい。今回の発表内容は優良事例集としてまとめる予定。本日お集りの各流改協の代表者には、1日も早く発表内容を加盟店に周知するようお願いしたい。」と挨拶した。審査結果は次の通り。詳細は次号で紹介予定。

- 農林水産大臣賞  
茨城県 雪印メグミルク埼玉販売所  
農水省生産局長賞  
香川県 宅配ミルク便  
Jミルク会長賞  
山梨県 ミルクコンタクト



# 牛乳摂取と産後うつに関する世界初の研究

## 乳の学術連合学術研究による成果

Jミルクが主催する第44回メグミルクセミナーが昨年9月30日「牛乳乳製品摂取と周産期うつ症状との関連」をテーマに大手町サンケイプラザで開催された。今回、愛媛大学大学院医学系研究科の三宅吉博教授が講演。国内での疫学研究から得られた結果を紹介したほか、さらなるエビデンス蓄積の必要性を指摘した。

本研究は、乳の学術連合学術研究を活用して得られた成果でもある。

乳製品などの摂取が

喘息に対して予防的

日本における栄養疫学の先駆者とされる海軍軍医総監高木兼寛は、食生活と脚気の発症との関連性を調査し、航海にお

ける予防や改善のために大麦、大豆、牛肉の摂取を勧めた結果、航海中に発症する脚気は大きく減少した。脚気の原因がビタミンB1不足であることが解明されたのは、それより後のことだった。このように疫学研究は、メカニズムの解明はさておき、「病気の発症を抑える」という実利を追求する学問であると言える。

研究手法としては、対象の行動を変化させる介入研究と、介入を行わない観察的疫学研究がある。私は、病気を発症していない人たちの疾患発生を防ぐ一次予防を目的とした、観察的疫学研究こそが疫学研究の第一義であり、衛生学・公衆衛生学の土台となる学問だと考えている。

私達の研究グループでは、妊娠中から産後の母親と生まれた子どもを対象とする観察的疫学研究を各地で実施し、妊娠中の栄養摂取、母親の周産期うつ症状や新生児のアレルギー発症リスクとの関連性を調べている。

2001年に開始した「大阪母子保健研究」(対象11,002名、期間11妊娠中(子どもが4年半になるまで)では、食事層法質問調査票を用いて妊娠中の栄養摂取状況を調べ、摂取量の多い順に4つのグループに分け、うつやアレルギーとの関連を解析した。

その結果、妊娠中のαリノレン酸やドコサヘキサエン酸(DHA)、乳製品、カルシウム、ビタミンEの摂取が多いほど、1歳半時点の子どもの喘鳴(気管支喘息患者などにみられる呼吸音)のリスクが有意に低下していた。イギリスおよびアメリカでも同様の結果が出ていることから、ビタミンEと喘鳴のリスク低下はかなり確度が高いのではないかと考えられている。

また妊娠中のチーズ摂取が多いほど、子ども(3歳半)の虫歯リスクが有意に低下することもわかった。このほか、緑黄色野菜や柑橘類、βカロテンが子どものアトピー性皮膚炎にたいして有意に予

防的であることや、逆に、リノール酸の摂取が最も多いグループは子どものアトピー性皮膚炎のリスクが約2倍高くなるということが明らかになった。

妊娠中の牛乳摂取で

産後うつのリスクが低下

大阪での研究成果を踏まえ、2007年から「九州・沖縄母子保健研究(対象11,757名、期間11妊娠中(8歳)を開始し、現在も継続している。栄養については150品目の食品摂取頻度と量を調査し、より詳細な分析を行っている。

これまでの調査から、魚介類、エイコサペンタエン酸(EPA)、ヨーグルト、カルシウム、ビタミンD、海藻の摂取が多いほど、母親の妊娠中うつ症状の有症率が有意に低いことがわかっていて、一方、飽和脂肪酸の摂取量が最も多いグループでは、妊娠中うつ症状の有症率が1.75倍高くなっている。さらに生後4か月時点の調査では、妊娠中の牛乳摂取が多いほど、母親の産後うつ症状のリスクが低下するとの結果が得られた。牛乳が産後うつに対して予防的であることを示唆する結果が出たのは世界初で、今後のさらなるエビデンスの追加やメカニズムの研究が期待される。

今回紹介したのは、日本人を対象とした継続調査から得られた貴重なエビデンスだが、この一つの結果だけで真偽を判定することはできない。多くの研究結果を統計的に解析するメタアナリシスによって結論を下す必要がある。そのためにはより多くのエビデンスを蓄積しなければならぬ。栄養疫学の分野において、日本人対象のエビデンスは極めて乏しいのが現状で、さらなる研究の拡大が求められる。私たちとしても、国内での疫学研究を今後も継続し、一次予防に資するエビデンスの蓄積を図っていきたくと考えている。

(一般社団法人Jミルク資料より)

# 全乳連の動向

- 2月1日(水) Jミルク・酪農乳業産業基盤強化特別対策事業・生乳及び牛乳乳製品需給見通し説明会を開催(千ト)、98.8%の見通し
- 29年度の生乳生産量は7,271(千ト)
- 課題11生乳生産基盤弱体化にいかにか歯止めをかけるか
- 2月3日(金) 全改協・牛乳販売店優良事例発表会
- 雪印メグミルク 埼玉販売所(茨城県代表)が農林水産大臣賞を受賞
- 若き二代目店主が「地域住民の健康生活を願うスタッフが一丸となって信頼回復」と訴えた
- 2月6日(月) 日本乳業協会・牛乳・乳製品から食と健康を考える会
- 酒井仙吉東大名誉教授が講演
- 輸入配合飼料に依存する日本型酪農生産のあり方に警鐘
- 2月13日(月) 全国中央会・経済法規検討委員会
- 独禁法の裁量型課徴金制度について公正取引委員会担当者から説明
- 国が進める「働き方改革」において、「同一労働同一賃金ガイドライン案」が作成されていることについて議論
- 2月14日(火) Jミルク・マーケティング専門部会
- 2月17日の理事会、3月2日の臨時総会に向けて、29年度のマーケティング関連事業について検討
- 2月17日(木) Jミルク・第4回理事會
- 3月2日の臨時総会に向けて、29年度の事業計画、予算などについて検討
- 2月23日(木) 森永乳業・29年度春季新商品発表会